(B)　スペクトル分析器を掃引して、全データ点の値をコンピュータの配列変数に取り込む。

(C)　全データについて、dB値を電力次元の真数に変換する。

(D)　次式により全データの電力総和を算出し、これをP_Sとする。ただし、参照帯域幅内の電力の真値（ＲＭＳ）が直接測定できるスペクトル分析器の場合は、その値を用いることができる。

$$P_S=\left(\sum_{i=1}^{n}E_i\right)\times\frac{S_W}{RBW\times k\times n}$$

P_S　：各周波数での参照帯域幅内の電力総和（W）
E_i　：１サンプルの測定値（W）
S_W　：掃引周波数幅（MHz）
ＲＢＷ：分解能帯域幅（MHz）
ｋ　：等価雑音帯域幅の補正値
ｎ　：参照帯域幅内のサンプル点数

(E)　(F)に示す方法により算出した搬送波の振幅値で除して、各不要発射周波数における搬送波の振幅値からの減衰量を算出し、六の項で算出した空中線電力を乗じた値を測定値とする。

(F)　搬送波の振幅値は、スペクトル分析器を２(1)エの設定において中心周波数を最大振幅値となる周波数、掃引周波数幅を占有周波数帯幅の２～３倍とし、上記(B)から(D)までと同様の手順により、全データの電力総和を算出した値を搬送波の振幅値とする。

イ　帯域外領域におけるスプリアス発射の強度

隣接チャネル漏洩電力の測定結果をスプリアス発射の測定値とする。ただし、帯域外領域において許容値を超えそうな信号を観測した場合には試験機器の状態を３(4)とし、帯域外領域の測定を行う。スペクトル分析器を２(2)のように設定し、探索したスプリアスの振幅測定値を測定値とする。

5　結果の表示

(1)　空中線電力が等価等方輻射電力100μW以下の場合

ア　４で測定したスプリアス発射及び不要発射の電力の最大の一波を周波数とともに、空中線電力に減衰量を乗じてスプリアス発射又は不要発射電力を算出し、等価等方輻射電力をμW単位で表示する。

イ　スプリアス発射の強度として、隣接チャネル漏洩電力の測定結果を用いる場合は、隣接チャネル漏洩電力の値を用いたことを表示すると共に、空中線電力に減衰量を乗じてスプリアス発射電力を算出し、等価等方輻射電力をμW単位で表示する。

(2)　空中線電力が(1)以外の場合

ア　４で測定したスプリアス発射及び不要発射の電力の最大の一波を周波数とともに、空中線電力に減衰量を乗じてスプリアス発射又は不要発射電力を算出し、給電点電力をμW単位で表示する。

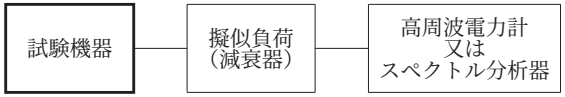
イ　スプリアス発射の強度として、隣接チャネル漏洩電力の測定結果を用いる場合は、隣接チャネル漏洩電力の値を用いたことを表示すると共に、空中線電力に減衰量を乗じてスプリアス発射電力を算出し、給電点電力をμW単位で表示する。

6　その他

掃引周波数幅125kHz又は500kHzの状態でスペクトル分析器の分解能帯域幅を10Hzとして測定する場合は、掃引時間中の試験機器の送信レベル等に変動がないことを確認する。

六　空中線電力の偏差

1　測定系統図



2　測定器の条件

(1)　高周波電力計又はスペクトル分析器として、平均電力で規定されている電波型式の測定は平均電力計を、尖頭電力で規定されている電波型式の測定は尖頭電力計を用いる。

(2)　平均電力計は、熱電対若しくはサーミスタによる熱電変換型又はこれらと同等の性能を有するものとする。ただし、バースト周期が長時間になる場合はスペクトル分析器を使用することができる。

(3)　尖頭電力の測定は、高周波電力計をスペクトル分析器に置換し使用することができる。

(4)　擬似負荷（減衰器）の減衰量は、高周波電力計又はスペクトル分析器に最適動作入力レベルを与える値とする。

(5)　尖頭電力の測定においてスペクトル分析器を使用する場合は、スペクトル分析器を次のように設定する。

中心周波数	試験周波数
掃引周波数幅	設備規則に規定する占有周波数帯幅の許容値の約10倍
分解能帯域幅	30kHz
ビデオ帯域幅	分解能帯域幅の３倍程度
掃引時間	測定精度が保証される最小時間（バースト波の場合、１サンプル当たり１バースト以上が入る時間）
掃引モード	連続掃引
検波モード	ポジティブピーク
表示モード	マックスホールド

注　繰り返し掃引により１サンプル点にバースト送信時間が含まれれば掃引時間を短くすることができる。

(6)　尖頭電力の測定において、バースト周期が長時間になるとき、スペクトル分析器を使用する場合は、スペクトル分析器を次のように設定する。

中心周波数	試験周波数
掃引周波数幅	０Hz
分解能帯域幅	100kHz
ビデオ帯域幅	分解能帯域幅の３倍以上
掃引時間	１バーストの継続時間以上
掃引モード	連続掃引
検波モード	ポジティブピーク
表示モード	マックスホールド

(7)　平均電力の測定において、バースト周期が長時間になるとき、スペクトル分析器を使用する場合は、スペクトル分析器を次のように設定する。

中心周波数	試験周波数
掃引周波数幅	０Hz
分解能帯域幅	100kHz
ビデオ帯域幅	分解能帯域幅の３倍以上
掃引時間	１バーストの継続時間以上
掃引モード	単掃引
検波モード	サンプル